

大阪は「まち」がほんまにおもしろい

大阪三橋・鶴見橋ディープツアー ～天神橋・心齋橋と並び称された商店街～

鶴見橋界隈は、元禄13年(1700)に新田開発で開拓され、明治42年(1909)に大日本紡績(現・ユニチカ)の工場が建設されました。工場近くに1本の橋が掛けられ、地元民が鶴見橋と命名したのが地名の由来です。南海線・三寶線といった交通機関が整備されると、商店街は従業員の通勤路、社交場となり、天神橋、心齋橋と並び「大阪三橋」と称されるほど発展しました。しかし空襲の標的となり、昭和26年(1951)に操業停止しました。産業構造と交通機関の急激な変化に翻弄され、商店街は往時の人出を失い、現在に至ります。



10 鶴見橋クラブ
昭和52年(1977)に囲碁将棋クラブとして誕生。戦前は青果店、その後、書店になり、現在に至っています。席料は1日400円。一日中ゆっくりと囲碁・将棋が楽しんでもらえると、野田阪神や寺田町、都島区から自転車でお来店するお客様がいるほど人気があります。

12 お好み焼き・だるま
雑誌などの大阪B級グルメ特集などで、よく取り上げられるお好み焼き店。名物メニューは「豚玉」380円。お得な値段設定とボリューム感、地元だけでなく、遠方から訪ねられるお客様にも人気です。ちなみに、お好みソースは、地元生産の「ヒシ梅ソース」を使用しています。

13 西原食品店
昭和62年(1987)、東大阪で営業していた韓国食材取扱店が鶴見橋商店街で開店。各種キムチは日本人や在日コリアンの好みに合わせた味で、辛さよりも旨さとコクがあります。遠くは愛媛県から定期的にお買ひものに来るお客様もいて、連日賑わいを見せています。

14 鈴成座
元々は「鶴見グランド」という名前の大衆演劇劇場でしたが、平成11年(1999)に経営者が変わり、現在の「鈴成座」に名称が変更されました。毎月1劇団が1カ月単位で公演しています。名称変更後は観客が集まらず、閉座の危機に瀕しましたが、営業努力により、現在では平日でも満員御礼が出るほどの人出があります。また、地元にも受け入れられ、鶴見橋商店街内の喫茶店等では、前売りチケットが販売されています。

15 井戸ポンプ (山口酒店)
昭和3年(1928)に設置された井戸です。現在も、地元の人々が洗濯、掃除に使用しています。

16 地下鉄「花園町駅」
大正9年(1920)に、市内の交通量増加の対応策として日本初の公営地下鉄建設が計画され、昭和17年(1942)に高速鉄道(地下鉄)3号線(大田町～花園町)の終着駅として建設されました。ちなみに、花園町が通る地下鉄沿線名の「四ツ橋線」は愛称で、正式名称は「高速電気軌道第3号線」といいます。

11 大松かまぼこ
平成12年(2000)に全国水産食べもの展で農林水産大臣賞を受賞した名店。戦前は王子商店街で営業し、昭和24年(1949)に鶴見橋で営業を開始しました。以来60年、この場所で営業を続けています。お店の名物はごぼ天とごぼ天。隠れメニューもあります。

1 南海汐見橋線「津守駅」
正式名称は南海電鉄高野線です。汐見橋線は愛称で、汐見橋駅から岸里玉出駅の区間を指します。津守駅は大正2年(1913)に仮駅として設置され、大正5年(1915)に一般駅に格上げされました。戦前は大日本紡績津守(木津川)工場の最寄り駅でした。2007年調査では、1日の乗降人員は600名で、利用者のほとんどは、西成高校在籍の生徒や教員です。

2 大日本紡績株式会社津守(木津川)工場跡
明治42年(1909)操業の国内最大級の紡績工場です。建物は煉瓦づくり平屋建てで、一時は4千人以上が従事しました。工場内には社宅や小学校が付設され、日本の戦前の綿布(木綿)輸出額世界一を支えましたが、陸軍・海軍の軍用服生産を開始したため、空襲の標的となり、ほぼ全ての設備を焼失。残った設備で鉄工場として操業を再開しましたが、昭和27年(1952)に操業中止となり、取り壊されました。その後、敷地の一部は大阪市に売却され、津守下水処理場と工業用水貯水池に。残りの敷地は昭和40年(1965)、6千人が収容可能な一大レジャー施設「ニチボーリバーサイドプール」が建設されましたが、それも昭和43年(1968)に閉鎖。その後、西成公園と西成高校が作られました。

3 三寶線(大阪市電堺線)
芦原橋～湊ノ浜間の路面電車のことを指します。昭和19年(1944)開業で、当時、路面電車を運営していた阪堺電鉄株式会社を大阪市が買収し、大阪市電気局(現・大阪市交通局)が運営することになりました。昭和20年(1945)に空襲で壊滅的被害を受け、一部区間が廃止されますが、戦後、大浜海水浴場や住之江競走場(現・住之江競艇場)の人気などで復興。しかし大阪湾の海洋汚染で大浜海水浴場が閉鎖すると乗客は減少し、さらに路面電車が走る府道29号の渋滞緩和のために市議会で廃線が決定しました。愛称の三寶線は、市電の車庫が三寶(堺市)にあったことが由来とされています。

4 津守商店街
昭和23年(1948)設立。戦前は三寶線を境として東西に分かれていましたが、戦災で大半が焼失。復興のために合併され、現在に至っています。

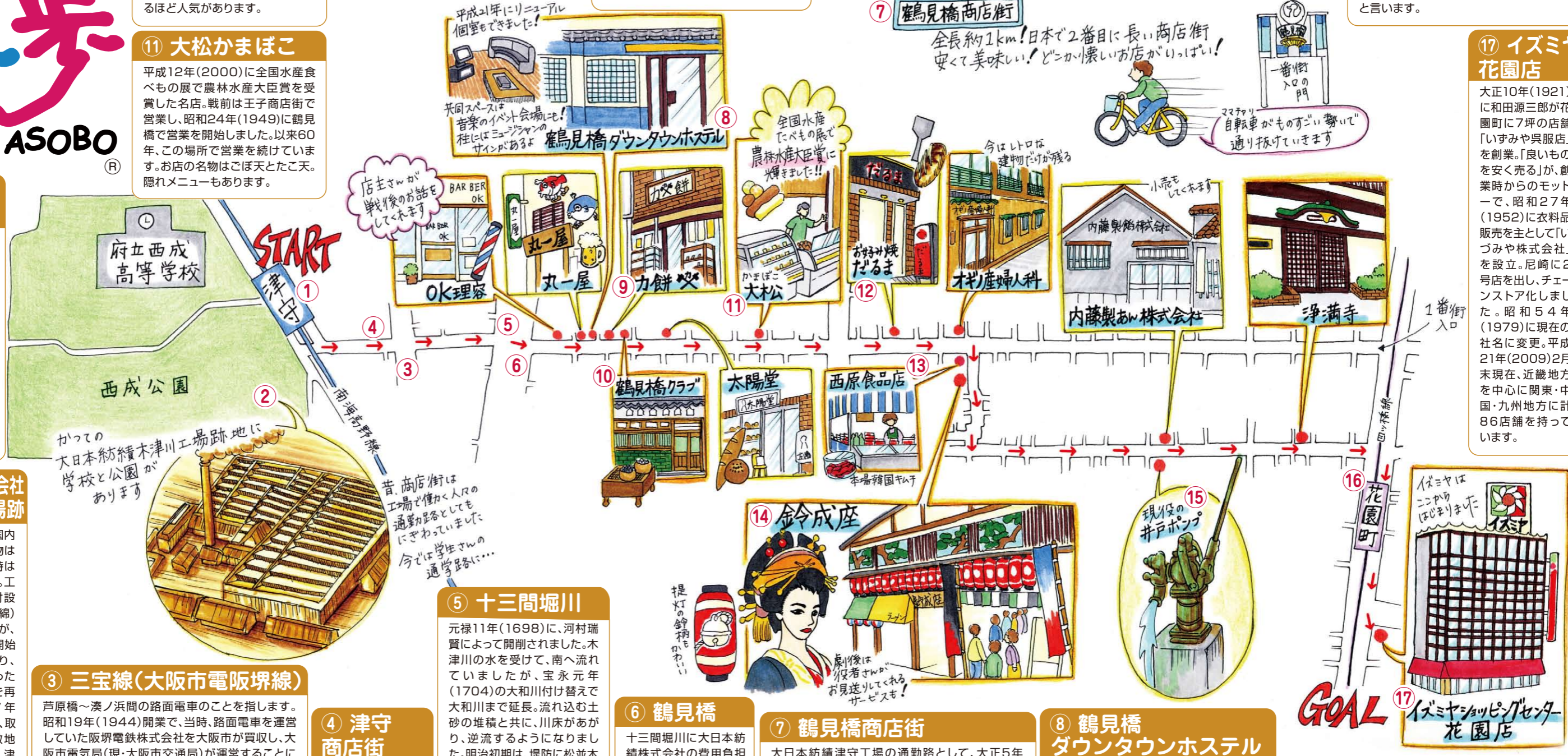
5 十三間堀川
元禄11年(1698)に、河村瑞賢によって開削されました。木津川の水を受けて、南へ流れていましたが、宝永元年(1704)の大和川付け替えで大和川まで延長。流れ込む土砂の堆積と共に、川床が上がり、逆流するようになりました。明治初期は、堤防に松並木があり、農業用水路として利用され、大阪から船を浮かべ、住吉に遊ぶ航路にもなりました。昭和45年(1970)、阪神高速道路15号堺線と付属道路の敷地となり、ほとんどが埋め立てられ、現在は住之江区内に一部残っています。

6 鶴見橋
十三間堀川に大日本紡績株式会社の費用負担で作られた橋です。紡績工場が出来た前、工場付近は湿地帯で、冬になると鶴が到来し、その様子を伺うことができたので、地元の人々が「鶴見橋」と名付けたと伝えられています。

7 鶴見橋商店街
大日本紡績津守工場の通勤路として、大正5年(1916)頃より商店が立ち並び始めたのがはじまりです。昭和4年(1929)に鶴見橋通総連合会が結成され、戦前にかけての賑わいは天神橋、心齋橋と並び称されるほどでした。戦後、産業構造が変化(皮革産業の衰退等)して津守工場が閉鎖され、市電も廃止されると、かつての賑わいは失われました。アーケードは昭和35～37年(1960～1962)にかけて、1番街から8番街まで設置されました。

8 鶴見橋ダウタウンホテル
平成20年(2008)、元は歯科医院の建物をリノベーション。1階に個室(7室)、2階にドミトリー(20ベット)という構造でしたが、平成21年(2009)、2階のドミトリーを個室に改装し、個室15室の簡易宿泊施設となりました。毎月偶数月の最終日曜日には「鶴見橋手作り市」を開催し、作家たちの発表の場として活用されています。

9 力餅食堂 鶴見橋店
力餅食堂は、明治21年(1888)に池口力造が、京都府豊岡町で饅頭屋をはじめたことがきっかけで創業されました。その後、京都市内へ進出し、各種献立を出して食堂として営業を開始しました。鶴見橋店は、力餅食堂で8年間営業した店主が、昭和42年(1968)にのれん分けして開店しました。日曜日のお昼時は、家族連れで賑わいます。



大阪あそ歩のコースは約2~3km、2~3時間程度を基準として作成されています。